

時局に思う



日本遺族会会長
参議院議員

水落敏栄

さる九月四日、山形県東根市戦没者追悼式に参列いたしました。

東根市は、私の父が戦死した神町海軍航空隊があった場所で、戦後五十一年の平成七年に一度お参りしましたが、それ以来の訪問となりました。

神町海軍航空隊は昭和十七年設置され、今は自衛隊第六師団司令部が置かれています。私の父は、飛行整備兵として今の山形空港で勤務中に、東北主要地域一帯が空

襲に見舞われた際、米軍機の爆撃にあい戦死しました。昭和二十年八月九日、終戦の六日前の出来事でした。

今回は山形県遺族会、東根市遺族会のお力添えで、自衛隊第六師団長に特別の許可を頂き駐屯地へ入ることが出来ました。敷地内を見渡すと自然と父の面影が浮かびました。二歳半で父を亡くした私

戦後七十年節目の年に 会長就任と父の慰霊碑に参拝

には遺影しか記憶にありません

が、三十五歳で亡くなった父の年齢をはるか越えた今、ここでどんな作業をしていたのか、仲間との平穏な日々が少しはあったのだろうか、最期は何を思ったのか、苦しかっただろうか、色々な思いが頭を巡りました。

そして敷地内にひっそりとたたずむ慰霊碑に花を手向け、手をあ

わせました。母が生きているうちに一緒に来たかった。そう思った瞬間涙がとめどなく流れました。戦後、母と兄弟三人その日を生き

るのさえ大変だった毎日を思い出し、どんなに父がいてくれたらと思いました。幸い沢山の方々を支えられ、私たち兄弟はそれぞれ伴侶を得て、今は子や孫に囲まれ幸せに暮らしていると持参した家族

写真を胸に報告しました。

戦後七十年という節目の年に、遺族会長に就任させていただき、父の慰霊碑に参拝する機会を得られたことは、何かの縁を感じずにはいられません。私は本来、日本遺族会会長の重責を担うような器ではありません。しかし、多くの方々のご推挙を受けて大役を拝命したのは、私が自身の人生をかけ

て、恒久平和な社会を実現するために働くよう先輩方に激励していただいたと感じ、決心したからであります。

故に私は戦争の風化を防ぐため、平和の語り部の後継者となる戦没者の孫、ひ孫の皆さんを遺族会組織に参画してもらい、永遠に平和を希求する遺族会活動が続けられるよう、これからも精進努力して参りますので、皆様方には引き続きご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



父親が戦死した神町海軍航空隊があった場所の慰霊碑に献花する水落会長